

---

## 特別寄稿

---

# 永守記念最先端がん治療研究センター開所に当たって

---

## 京都府立医科大学附属病院での 陽子線治療開始を控えて

京都府立医科大学長

竹 中 洋



陽子線治療開始が間近に迫ってきていることは確かです。本格的な薬事法上の認可を得るための最終報告書が日立製作所からPMDAに提出された旨、報告を受けたところです。協議が順調に進めば、PMDAから厚労省に審議が移るところまで来たこととなります。この流れですと、今年度中に予定されている試験照射が10名の患者さんに開始されます。順調に進めば元号が変わる頃に、保険で認められた治療が開始されると考えています。

永守重信日本電産会長から永守記念最先端がん治療研究センター建屋と陽子線治療装置一式が寄贈されてから1年半、京都府と本学が念願とするがん治療の最新鋭陽子線治療が始まることとなります。府民の皆様や医療界から多大な

期待をいただいていることを重く受け止め、日本におけるがん治療の在り方を追求したく、覚悟を定めております。

昨今のがん治療の革新は目覚ましいものがあります。陽子線治療はその象徴ではありますが、ロボット手術の進化、分子標的薬の開発など治療のすべての分野で過去に経験したことのない技術革新が進んでいます。診断ではゲノム医療が日常的なものになって来ています。本学では、教室や講座の枠を超え、がん診療の本流を学ぶべく種々の組織改革を今後計画していますので、適時お知らせをしてまいります。

平成31年2月12日

